

# 1. 評価報告概要表

認知症対応型共同生活介護

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071900866
法人名	有限会社 エイエスサービス
事業所名	グループホーム サンホーム
所在地	福岡県田川大字楠2301番地96 TEL 0947-45-5050

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成20年11月1日	評価確定日	平成20年11月25日

## 【情報提供項目より】(平成20年 10月 10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 12月 20日						
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人				
職員数	22人	常勤	14人	非常勤	8人	常勤換算	16.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階 ~

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000円	その他の経費(月額)	6,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日 1,100円			

### (4) 利用者の概要(10月10日現在)

登録人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	8	要介護2	7		
要介護3	2	要介護4	1		
要介護5	要支援2				
年齢	平均 85.16歳	最低	66歳	最高	98歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	深田医院 きたはら歯科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

設立6年目を迎えるグループホームサンホームは平成14年12月に1号館が、1号館運営の経験を活かして平成17年3月に2号館が設立された2ユニットの木造平屋のグループホームである。ホーム名称のとおり太陽が降り注ぐ展望の良い小高い丘にあり、近隣に大型スーパーマーケットや市立病院、グランドゴルフ場、住宅地がある幹線道路に面している。入居者の人生に敬意を持ち「人としてゆっくり・のんびり生きることを支援する」ホームの理念は、入院した入居者に毎日付き添うことで早期にホームで生活できるよう支援したり、職員の日々の接遇マナーを徹底することや介護技術の向上を目指して始まった月2回の内部研修会から十分に伺える。このような理念に沿った支援で、入居者は穏やかに笑顔で暮らしている。また、運営者は職親として職員の仕事参加を支援したり、視覚障害者の介護支援専門員を雇用することで、職員が共に「人として生きる」ことも支援しており、近年離職者がいない。今年9月「オープンホーム」でホームを開放し、2名の見学者があり1名は入居予約をしているが、「地区住民が気軽に立ち寄れるホームにしたい。何かあったら相談ができるホームにしたい」との目標を具現化しつつある。そして、昨今地域の介護サービスの利用者が行方不明になったこと等から、市担当者と協力し「こんな高齢者を見かけたら、自宅に訪問があったら、連絡をお願いします。」と記載した探索マップを作成し、地区公民館や近隣に150部配布し理解と協力をお願いしている。今後、探索マップの活用でグループホームが地域密着型サービスとして、さらに地域に周知されることが期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	自己評価は各ユニット毎に検討し管理者や計画作成担当者がまとめている。外部評価を日ごろの業務を見直す良い機会と捉えて、前回の評価報告書を職員の目に触れる場所に設置している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価に沿って、運営推進会議実施要領の整備、訪問看護記録の整備、職員の定期健康診断の実施などに取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議実施要領を整備し、適切なメンバーで2ヶ月毎に開催している。外部評価結果やホーム行事等を報告し、議事録を整備している。運営推進員でもある家族が、ホームヘルパーの資格を取得し、他の同業者に就職した経緯等から、運営推進会議後、職員の介護技術を向上したいと研修も始めている。市職員も見学している。今回の探索マップ作成については、延べ3回推進会議で検討され、委員の意見や市職員の協力もあり、4月に完成している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	各ユニットとも入居者の家族等の訪問も多く、その折に日ごろの暮らしぶりや心身の状況を報告している。泊る家族もある。クリスマス会は家族にも案内し、クリスマスプレゼントとして1年間の暮らしをDVDに編集し、全家族にプレゼントしている。医療機関受診状況は随時報告している。成年後見制度に関する説明書を整備し、入居時や必要に応じて入居者や家族に説明している。再三制度の活用を説明する入居者もいるが、活用に至っていない。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域自治会に加入し清掃等に参加しているが、公民館活動であるグランドゴルフに入居者ともども参加することで、地域住民としての交流が深まりつつある。9月の3日間、ホームを自由に見学してもらうオープンホームを開催したところ、見学者が2名あり1名は入居予約をしている。ホームが365日24時間稼働している機能を地域に還元したいと田川市の協力を得て「探索マップ」を作成し、地区公民館や近隣へ150枚配布している。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念である「人としてのんびりゆっくり生きることを支援する」を各ユニットの玄関に大きく掲示している。運営規程やパンフレットに理念をより具体的に明記しているが、地域密着型サービスの方針の記載がない。	○	公民館活動事等の参加で地域との交流が促進しているが、「地区住民が気軽に立ち寄れるホームにしたい。何かあったら相談ができるホームにしたい」との目標を具現化するためにも、運営規程、重要事項説明書等に地域密着型サービスの方針である「家庭的な環境、地域との交流の下」の明記をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念である「人として生きるを支援する」ケアについて機会ある毎に職員に話しているが、入居者への敬意を徹底したいと、応対の言葉遣いについて注意を促している。理念に沿って入居者の生活リズムを尊重した介護計画を作成している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会に加入し清掃等に参加しているが、公民館活動であるグランドゴルフに入居者ともども参加することで、地域住民としての交流が深まりつつある。9月の3日間、ホームを自由に見学してもらおうオープンホームを開催したところ、見学者が2名あり1名は入居予約をしている。365日24時間稼働しているホームの機能を地域に還元したいと田川市の協力を得て「探索マップ」を作成し、地区公民館や近隣へ150枚配布している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニット毎に自己評価を検討し、管理者や計画作成担当者がまとめている。外部評価を日ごろの業務を見直す良い機会と捉えて、前回の評価報告書を職員の目に触れる場所に設置している。前回の外部評価に沿って、運営推進会議実施要領の整備、訪問看護記録の整備、職員の定期健康診断の実施などに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議実施要領を整備し、適切なメンバーで2ヶ月毎に開催している。外部評価結果やホーム行事等を報告し、議事録を整備している。運営推進員でもある家族が、ホームヘルパーの資格を取得し、他の同業者に就職した経緯等から、運営推進会議後、職員の介護技術を向上したいと研修も始めている。市職員も見学している。今回の探索マップ作成については、延べ3回推進会議で検討され、委員の意見や市職員の協力もあり、4月に完成している。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今回の探索マップ作りを通して、行政担当者とは運営推進会議以外にも関係が格段に深まり、今後のサービスの質の向上に向けて連携している。また、介護計画作成担当者が近隣の行政が主催している家族を対象とした「ほのぼの介護教室」の講師をしている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	成年後見制度の説明書を整備し、入居時や随時入居者や家族に説明している。再三制度を説明し活用をうながしている入居者もいるが、活用には至っていない。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各ユニットとも家族等の訪問も多く、その折に日ごろの暮らしぶりや心身の状況を報告している。泊る家族もいる。毎年クリスマス会は家族にも案内し、クリスマスプレゼントとして1年間の暮らしをDVDに編集し、全家族にプレゼントしている。医療機関受診状況は随時報告している。預かり金はなく、ホームが立替で領収書で清算している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営規程にホームや行政機関の苦情相談窓口を明記し、苦情相談箱を設置している。函された意見は、苦情処理帳を整備し、対応している。家族会はないが、家族訪問時に意見等を伺っている。	○	家族の参加があるクリスマス会等で、家族会の発足を提案されていかかでしょうか。家族同士の意見交換や交流も期待できると思います。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動が入居者にとって影響が大きいことを理解し、担当制を導入しダメージを防止している。担当制導入後ここ3年間離職者はない。ミーティングなどで担当者からの報告受け、主任を中心に連携して日々のケアに取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	代表者は面接時に、「高齢者と同居していたか」を必ず尋ね、「高齢者にやさしい」事を最優先に採用している。職親として採用した職員が心身の状況に応じて働けるよう支援したり、職親期間終了後職員として2名採用するなど、社会参加を支援している。雇用契約書を取り交わし、職員は定期健康診断を受けている。休憩室で交代で休憩を取り、時間外労働をできるだけしない環境を整え、食事会等ストレス解消にも努めている		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	代表者は、理念の「人として生きる」を具現化すべく、入居者へ敬意を払った言動について機会ある度に話している。12月の行政主催の人権学習に参加し、職員に周知している。指定更新の時期でもあり、運営規程に身体拘束虐待防止について明記する予定である。	○	人権尊重のケアに取り組まれているので、身体拘束虐待防止について運営規程・重要事項説明書に明記をお願いしたい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	加入している地区同業者の連絡会の主催で消防署から救急蘇生法やAEDの取り扱いの研修を受けたり、外部研修の案内を掲示し職員の参加を促している。昨今運営者が介護福祉士資格を取得していたことがきっかけとなり、月2回介護技術の向上のために内部研修を実施している。職親として職員の段階に応じた勤務時間の配慮をしている。職員の悩み等は、管理者・主任で対応している。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域同業者の10事業所と田川グループホーム連絡会を発足し、交流や情報交換でサービスの向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今年9月の3日間はオープンホームを掲げ、ホーム見学を案内している。2名の見学者があり、1名は入居予約をしている。入居希望者や家族に納得して入居していただくことをこころがけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者に調理手順やことわざの語源等の解説をお願いするなど、入居者を人生の先輩として敬っている。外泊した入居者が「ホームの方が居心地が良い」と話してくれることが励みになると職員は話している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意向を把握するために、包括的自立支援プログラムを活用しているが、生活歴や職歴、家族構成等の基本情報の記載がない。日々の係わりから、入居者の意向を把握し介護記録に記載しているが、記載が不十分である。	○	入居者の職歴・生活歴、家族構成等の基本情報は把握しているので、全職員が情報を共有するためにも、記録の整備をお願いしたい。また、介護記録に入居者の意向等はそのままの言葉で記載してはいかかでしょうか。記録が容易で具体的になると思われます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の意向を記載した介護計画を入居者や家族に説明し、了解を得ているが、目標とケア内容が連動しない計画もある。また、介護計画作成担当者、職員等の話し合いの記録を整備していない。	○	ホームが入居者の生活の場であることから、食事(水分を含む)・排泄等のADLに関する課題やIADLを実践する基本動作の支援を盛り込んだ介護計画の作成をお願いしたい。入居者の生活歴や職歴から役割探しや役割作りが有効なケアの場合もあると思われます。全職員による知恵や工夫による介護計画を期待します。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	約4ヶ月毎に介護計画を見直しているが、骨折等で退院した入居者の介護計画は3ヶ月で数回作成するなど、入居者の状況に応じた介護計画を作成している。見直した介護計画は、入居や家族に説明し、了解を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じて医療機関受診を支援したり、宗教行事の参加を支援している。帰宅願望が強い入居者をホーム長宅でもてなし、ホームでの生活が安定した入居者もいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医受診や月2回の協力医療機関受診を支援している。睡眠表が分り易いと協力医から意見があるなど、受診時ホームでの入居者の状況等を説明している。医療機関受診内容は随時家族に電話で連絡している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化した場合における指針を整備し、ホームでの看取りを考慮しているが、現在まで終末期の入居者はいない。入居者や家族、協力医療機関、訪問看護等の関係者で十分な話し合いで方針にそった対応を予定している。	○	全職員が終末期ケアの方針を共有化し、スキルアップを目指した研修をお願いしたい。また、ホームが生活の場であることから具体的な終末期対応のマニュアル作成をお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の利用目的及び第三者への個人情報を提供する場について説明し、同意を得ているが、ホーム内に掲示していない。職員は守秘義務について誓約書を取り交わし、入居者に穏やかで丁寧な対応をしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活習慣・嗜好・生活リズムを尊重し、起床時間、消灯時間を決めずに、ゆっくりのんびり穏やかな暮らしを楽しんでいる。また、喫煙・晩酌も禁止せず、換気と火の始末を留意し支援している。5名はボトルをキープし毎日夕食時の晩酌を楽しみにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い置きはしないので、入居者の希望する献立の買い物に同行したり、食器拭きをする入居者もいる。夕食前に食前酒を嗜む入居者もいる。入居者の状況に応じて、テーブルを分け職員が食べやすいように刻み食にしたり、食べ残しがないように支援している。食事介助している職員に自分の食事を勧めるなど、和気藹々として食事風景である。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している	訪問調査日も午前中から浴そうにお湯は張っており、毎日18時まで対応しているので、2回入浴する入居者もいる。1番風呂に希望が多く、入浴順番を決めている。2号ユニットは2人でゆったり入浴できる大きさの浴そうが設置され、仲の良い入居者同士で入浴することもある。入浴拒否者には、職員が裸で一緒に入浴したり、家族の協力を得て支援するなど工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸の好きな入居者に園芸をお願いしたり、ホームで働いていると思っている入居者もおり、率先して洗濯物たたみや食器拭きをお願いしている。ホーム内外で他の入居者の車いす押しをお願いする入居者もあり、役割づくりを支援している。体操等のアクティビティは一覧表に参加日を記入したシールを張ることで、入居者の楽しみになっている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の古里を訪問したり、季節毎に花見やもみじ狩りにでかけているが、日頃は近隣の大型スーパーに買い物に行ったり、散歩をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず見守り等で対応しているが、事故防止のため両ユニットとも玄関にはセンサーを設置している。地域の介護事業者で利用者が行方不明になる等があったことから、ホームが365日24時間稼働していることを活用し、田川市の協力を得て「探索マップ」を作成し、近隣に150部を配付し理解や協力を求めている。派出所からの巡回等もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災等の非常事態に備え、避難訓練を実施している。加入している地区同業者の連絡会で消防署から救急蘇生法やAEDの取り扱いの研修を受けている。消火器を設置し、2号館はスプリンクラーを設置予定である。主食である米を1年分備蓄している。	○	火災ばかりでなく自然災害対応マニュアルの整備をお願いしたい。また、「探索マップ」の活用と同じようにホームを自然災害等の避難場所として提案されてはいかがでしょうか。運営推進会議での検討を是非お願いしたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日おおよそ1500Kcalの食事摂取を支援し、食事・水分摂取量を記録している。入居者の嗜好を把握し、咀嚼や嚥下状態に応じて刻み食にしている。既往症に応じて、主治医から指示された水分摂取を支援している。毎月2回体重を測定しているが大幅な増減はない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭の花壇に季節の花を植え、玄関前にスロープを設置し、車いすの移動を容易にしている。ホームは小高い丘にあるため、民家や道路の明かり、福知山の眺望を楽しんでいる。各ユニット毎の構造に合わせて、玄関や共用空間に椅子やテーブル、ソファが置かれ、入居者は好みの場で寛いでいる。各ユニットとも共用空間の一角に厨房があり、まな板の音や食事の匂いが漂っている。空気清浄機を設置したり、床全面に消臭マットを活用し、空調を管理している。1号館の構造を参考にして2号館は共用空間やトイレ、風呂場がゆったりとした構造になっている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット、タンス等はホームの備えつけであるが、入居者のADL状況に応じて電動ベットを使用している。居室入口は入居者名、担当者職員名等が記載され、テレビや馴染みの家具、位牌や日用品、家族の写真が飾られ、居心地の良い居室づくりがある。		